

南区のおいしさの発信地

生産者直売所

ふじのとれたてっこ

南区の藤野や篠舞、石山地区の22戸の生産者でつくる「ふじのとれたてっこ運営協議会」は、週4回、新鮮な地元農産物を地域に提供しています。

早朝、各自の畑で収穫した農産物をすぐに直売所へ運びます。生産者の名前の書かれたシールを張り、棚に陳列して開店を待ちます。商品の販売や店当番も協議会の会員が交代で行っています。



場所：南区藤野2条7丁目
JAさっぽろ藤野支店裏
開店：火、木、土、日曜日
時間：午前10時～午後3時



▲10時の開店の様子です

同協議会の荒井和哉会長は「安心・安全で新鮮な農産物を、自信を持って提供しています。ぜひ、地元のおいしさを味わってください。これからは、とうきびがおいしい季節ですよ」と話します。

地域の台所・憩いの場

地産地消の取り組みの先駆けである「いしやま朝市」。地域の農家数戸が農産物を地元へ提供し、「地域の台所」としてスタートしました。これに「こまおか朝市」も続き、農産物の販売のほか、簡易な喫茶コーナーを設けたりして、「地域の憩いの場」へと発展しています。

いしやま朝市

石山地区は、南区内でも2番目に高齢化率が高い地区。「身近な地域で買い物をした」という住民の声に呼応して、平成16年から始まりました。

「いしやま朝市実行委員会」が中心となり、地域のボランティアや数戸の地元農家、東海大学の学生らが協力し合って、月2回、地元の農産物やその他食料品などを提供しています。また、喫茶コーナーでは、おしゃべりしながらコーヒーを飲むこともできます。



場所：南区石山1条3丁目
石山振興会館前
開催：第1・3土曜日 午前9時～10時

こまおか朝市

地域住民の交流と高齢者の生きがいづくりを目的に、平成17年から始まりました。

「こまおか朝市実行委員会」が中心となり、社会福祉協議会や保養センター駒岡、地域のボランティア、数戸の地元農家が協力し合って、月2回、地元の農産物やその他食料品などを提供しています。「いしやま朝市」同様、喫茶コーナーがあり、地域の憩いの場として利用されています。



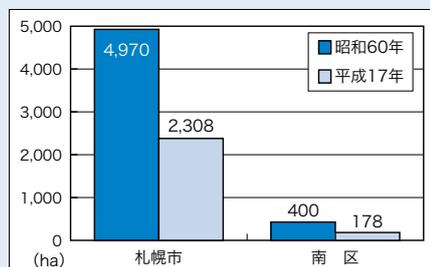
場所：南区真駒内600番地20
札幌市保養センター駒岡
開催：第2・4日曜日 午前9時～10時

※直売所・朝市では、終了時刻前に売り切れとなる農産物もあります。

早速、食べてみよう!
南区には、おいしい農産物がたくさんあります。直売所や朝市は、農家、ボランティア、地域の人々が試行錯誤しながら運営しています。皆さんもぜひ、南区の地産地消に参加してみませんか。

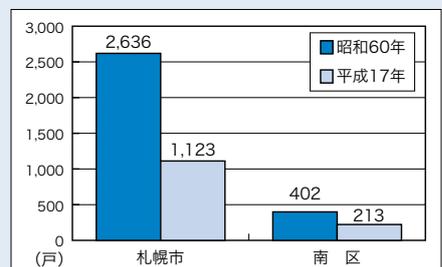
耕作面積の推移

昭和60年から平成17年までの20年間で、札幌市は53.6%の減少、南区は55.5%の減少となっています。



農家戸数の推移

昭和60年から平成17年までの20年間で、札幌市は57.4%の減少、南区は47.0%の減少となっています。



農業に関する数字

